

1	審議会名	市民による事業評価（青少年の育成）
2	日 時	平成25年2月12日 午後3時00分から午後4時00分まで
3	会 場	市役所 本庁舎6階 大会議室
4	出席者	飯塚義隆委員、海野友恒委員、小池正彦委員、小岩井礼子委員 佐藤満博委員、杉崎友子委員、関和 弘委員、高橋 仁委員、田村 保委員 中村京子委員、山浦正嗣委員
5	市側出席者	浅野生涯学習課長、佐藤スポーツ推進課長、黒岩スポーツ推進係長 坂口学校教育担当係長、宮沢行政改革推進室主査
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成25年2月13日

## 協 議 事 項 等

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 チームリーダー（以下「TL」）、副チームリーダー（以下「STL」）の選出  
TLに、田村 保委員  
STLに、飯塚義隆委員 が選出される。
- 4 議 事
  - (1) 事業概要の説明
    - ・資料「テーマ別事業概要書」に沿い、浅野生涯学習課長から事業概要を説明
    - ・以降、質疑
  - (委 員) 今回は、資料にある8つの事業についてのみ事業評価を行うのか。
  - (事務局) そのように考えている。
  - (委 員) 8つの評価対象事業以外で、学校教育課にお聞きしたいことがある。  
上田市は、他市と比べ義務教育の力が非常に落ちているのではないかと感じている。過去に、「上田市教育行政のあり方を考える有識者会議」で議論されたが、その提言がどの程度現在にいかされているのか。（上田市教育支援プランでも）28項目について支援策が掲げられているが、現状はどうか。また、上田市内の進学校と呼ばれる高校でも指定校（推薦）が取れない状況があるが、義務教育に何か欠陥があると感じている。このような点についてお聞きしたいと考えているのでよろしくお願したい。
  - (事務局) 今回は、大人たちが青少年育成にどう関わっていくかが審議のテーマである。TLにもご判断いただきたいが、今のご意見については別の機会にお話しいただいた方が良いかもしれない。
  - (T L) 上田市のホームページに、上田市教育行政に係る評価報告書が掲載されている。その中でも触れられているが、直接、学校教育課へ提言する方法もある。  
今回のテーマは、地域の大人と子どもたちとの関わりという視点での審議になるので、学校教育については教育行政評価懇話会で議論しても良いと思う。
  - (委 員) 子どもは地域、学校、保護者の宝である。今回、この事業評価をするにも、学校教育についても議論しないと審議が不十分になるのではないかと。教育委員会で示した（教育支援プランの支援策）28項目があるが、きちんと実行されているか疑問である。議会や教育委員会も主体的に考えてほしい。
  - (T L) 学校と地域との関わりを議論していけば、家庭教育についても当然触れることになるが、テーマの視点は、地域が子どもたちにどう関わっていくのかであるので、その議論の中で必要なものは検討していく。

(S T L) 知識を子どもたちに与えていくということは、しっかり守っていかなければならない部分だと思う。しかし、子どもたちが地域の大人と関わり、心の成長をしっかり支えていかないと健全育成につながっていかない。大人がどう手助けできるのかを地域全体で考えていかなければならないと思う。

(委 員) 資料課題(6)は、まさにそのとおりで、基本は家庭教育だと思う。親についても一緒に考えていかなければならないと思う。

あと、ラジオ体操というのはスポーツなのか、体操なのか。

(委 員) スポーツと思うが。

(委 員) ラジオ体操は、正しく行くと体がきちんと伸びる。

(委 員) 市で主催するウォーキングに何度か参加したことがあるが、準備体操としてラジオ体操をしっかりとした時とそうでない時があった。他地域でウォーキングに参加した際は、しっかりラジオ体操をしていたので、上田市は、ラジオ体操に対する考え方が積極的ではないのかと感じたこともある。

(委 員) 今回のテーマの視点は、「地域の大人が子どもにどのように関わっていくのか」である。大人より先に悪くなる子どもは一人もいない。大人がどう接していくか、我々の認識や教養を高めないと、一つの論として体操もあると思うが、全体として議論していく必要がある。

(T L) 今後、地域の力が学校へ入っていくことになる。その時、子どもの学力についても触れていなければならないことがあると思う。

本日は時間となったので、次回の日程を決めたい。

## (2) 次回の開催日程について

- ・第2回 平成25年3月19日(火) 午後1時30分から

## 5 その他

- ・特になし

## 6 閉 会